

シニアの出会い最前線に密着

業界、最高齢、

# 「68歳以上限定」

80歳男性も  
やつてきた!



「熟年離婚してから6年になります。一人暮らしだと気持ちの落ち込みも激しい。そんなときに一緒にいてくれるパートナーがいるかどうかは、老後が寂しく枯れたものになるか、幸せで豊かなものになるかの分岐点だと考えるようになってきました。爽やかで楽しい男性が希望ですね」

次に話を聞いたのは、水沢アキの華やかな雰囲気を持つ60代女性だ。

「夫と離婚して24年。憧れだった田舎での一人暮らしは気楽ですが、周囲に知り合いもいなくて寂しくなっています。真剣に交際相手を探しています。こうした会には何度か参加しています。が、最初の「瞬」が大切ですね。人間性を見る前に、口臭や加齢臭がしちゃうとガッカリ。次はないな」と思っちゃう(苦笑)

「見た目」や「臭い」など、

「前の奥さんとはどう  
残りの人生を共に過

して別れたの?」「ご家族は再婚をどう考えているの?」  
ごす相手を探すからこそ、真剣に、深刻に尋ね合う

# 婚活パーティー



# 潜入ルポ

「出会いパーティー」「婚活パーティー」といえば、アラサー・アラフォーの男女のためのもの——という認識は間違いだ。近年、高齢者に「出会いの場」を提供する業者が急増している。本誌記者が潜入したのは、業界最高齢となる68歳以上限定のイベント。そこで繰り広げられた男女のやりとりは、実に切実で、人間臭かった。

## シニアの出会いの場

真夏日を記録した7月のある平日の昼下がりに。うだるような蒸し暑さの中、大阪・梅田のオフィスビルの一室に白髪交じりの男女19人が集まっていた。

「カミさんに6年前に先立たれてから、何をすることも寂しくてね。とにかく話し相手が見つかりません……」

「この歳だと食事に付き合ってくれる男性もなかなかいない。気の合う方を見つけてるのは難しい……」

男女がペアになり、真剣に身の上を語り合っている。これは「68歳以上の男性」が参加資格の出会いパーティーの一幕である(女性は年齢制限なし)。

主催するのは、50歳以上の独身者を対象とした会員

制クラブ「森羅倶楽部」だ。このクラブは様々な出会いの場をシニアに提供しており、その中でもこの日開かれた「もっと大人の出会いパーティー」は、最も高齢層の男性を対象にした企画である。

近年、50代以上対象のお見合いパーティーは急増しているが、「68歳以上限定」は前例がなく、業界最高齢。だという。

パーティーの開始直前、「森羅倶楽部」代表の阪本

## 家族には内緒で

この日は最高齢80歳の参加者を含む男性9人と、57〜70歳の女性10人が参加。開始前の参加者からは、独

特の緊張感が漂う。

女優の萬田久子を思わせるスレンダーな60代女性は参加動機をこう語った。

第一印象を大切にしている女性参加者が多いようだ。女性たちは自らの服装にも細やかに気を配っていた。白いブラウスに細身のストラップスを合わせるなど、清潔感を感じさせる着こなしが中心だ。

一方、男性陣のファッションは人それぞれ。Tシャツやポロシャツというラフな装いが多いが、ジャケットを羽織っていたり、ハンチング帽やサンングラスでキメている洒落者も。とはいえ若作りをしている人は少なく、「年相応」という印象だ。

プロフィールカードに、趣味、職業、好きな本・音楽、休日の過ごし方などを記入した後、自己紹介タイムへ。男女が隣り合って座り、2人きりで会話する時間が4分ずつ設けられる。

最初は緊張からか、「お住まいはどちら?」「こうしたパーティーは初めて?」と他人行儀に話す参加者が多かったが、2人目、3人目と話すうちに、男女の話になっていく。

「再婚となれば、「相手の家族からどう思われるか」が大きな問題になる。私は再婚希望ですが、この会への参加は子供に告げていませんし、一緒に老後を過ごしたい女性と出会うまでは言う必要もないと思っています。意中の女性がいても、再婚の希望を伝えると「家族に白い目で見られたくない」と断られることもある。なかなかうまくいきま

「再婚となれば、「相手の家族からどう思われるか」が大きな問題になる。私は再婚希望ですが、この会への参加は子供に告げていませんし、一緒に老後を過ごしたい女性と出会うまでは言う必要もないと思っています。意中の女性がいても、再婚の希望を伝えると「家族に白い目で見られたくない」と断られることもある。なかなかうまくいきま



せんね

再婚を望む参加者は、「お子さんはいらっしゃる？」  
「再婚についてご家族はどう考えていますか？」と繰り返して質問していた。

一方、資産や貯蓄など「カネの話」や、健康状態に関する話題はほとんど聞かなくてこない。「老老介護とか色々聞きたいことはあるんですが……。初対面でそこまで話すと暗くなってしまおう。まずは楽しい時間を過ごしたい」(前出・萬田久子氏の60代女性)

「この歳になって、相手の細かいことを根掘り葉掘りして、小さい男」と思われ



真剣に「セカンドパートナー」を探る参加者(円内は阪本代表)



たくない」(70代男性)

などというのが本音のようだ。

自己紹介の回数を重ねるにつれ、パーティーは熱を帯びてきた。4分間の終了を伝えるベルが鳴っても席を移動しない参加者も現われ、司会者が急かす場面もあった。

パーティーの途中で、司会者が「暑いですか？」と聞いた時のこと。すかさずひとりの男性が、「暑い、暑い。今日は美人ばかりだから特にね」とジョークを

飛ばすと、女性陣から「お上手！」と合の手が入り、ドツと笑いが起きた。

そうした軽妙な会話術やユーモアも当然ポイントとなってくる。

また遅刻していたある男性参加者が遅れて到着した時の様子も興味深いものだった。彼が長身のロマンスグレイだったためか、女性陣が一瞬ザワついたのである。やはり何歳になっても「見た目」はアドバンテージであると実感せざるを得なかった。

## 70にしてファッションを変えた

そしてパーティーはいよいよ佳境へ。1対1の自己紹介を終えると、司会者に「好印象シート」を提出。特に好印象を持った異性2名以上記入する。主催者側から参加者それぞれに「自分に好評価をつけてくれた異性」がこっそり教えられ、「脈アリ」の異性が誰か分かる仕組みになっている。さらにお茶を飲みながらのフリートーク、1人1人

がパーティーの感想を述べる時間へと続く。全てのスケジュールが終了すると、アンケート用紙に「最終候補」を3名まで選んで記入する。

この結果、最終的に男女の「最終候補」がマッチングすれば、後日主催者から連絡が入り、1対1で会う機会が設けられる。これはトラブルを避けるための配慮だという。

「当日はマッチング発表だけでなく、個人的な連絡先交換も禁止しています。会の終了後もまず女性の方に先に帰っていただき、10分後に男性の方に帰っていたようにしている。会場外での、出待ち・行為や、即日連絡を入れることなどによるトラブルを防止するためです」(阪本氏)

他にも高齢者向けイベントならではの様々な配慮がある。

「パーティーは68歳以上限定と謳っていますが、あえてプロフィールに年齢を書かないようお願いしています。年齢が書かれてしまうと、年齢だけを見失ってしまう。まずは先入観なく人柄を見ていただき、マッチングした後、スタッフが年齢をお伝えすることにしています」

(同前)

女性たちが会場を出る際、みな男性陣にこやかに手を振っていた。しかし、その胸中には様々な思いがあったはずだ。

パーティーを終えた73歳の男性が語った。

「この会に参加することで、ファッションを気にするようになった。現役時代は日経新聞しか読まなかったが、会話のネタ探しにワイドショーも見ようになりました。気に入った相手が好印象を持ってくれると嬉しいし、夢を見させてもらっている気持ちです」

パーティーへの参加そのものが生きる活力となっているという感想だ。

「今回も80歳の男性参加者がおられたように、お見合いパーティーの需要はより高齢化しています。特に、結婚にこだわらず「価値観の合うパートナー」を探したいと参加される方が多い。前回は参加者の約半数となる6組のカップルが成立し、現在も交際を続けていらしゃいます」(阪本氏)

今回も5組の男女がマッチングに成功し、会う日程を調整中だという。参加者のいきいきとした表情からは「老後への悲壮感」より「新しい出会いのチャンス」を楽しんでいる様子が見えがえた。